

鳥取県元気づくり総合戦略（平成30年8月改訂版）〔抜粋〕

3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ～鳥取+rhythm（リズム）～

(1) 移住・定住

鳥取県では、海や山などの豊かな自然、さらにそこから産まれる新鮮な食材、コンパクトな地勢、ゆったりとした時間の流れの中で「心の贅沢」を感じることができます。

本県では、平成19年度以降、移住施策を市町村との連携により積極的に取り組んできた結果、移住者数は年々増加し、近年では年間2,000人以上にもなっています。

平成29年度の移住者数は、2,127人と過去最多となり、移住定住促進や子育て支援策により国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来人口推計の2040年時点の本県人口は、前回調査より31千人余増の約472千人と改善されました。

一方で、平成29年の転出超過数は1,164人で、そのうち20代前半が859人となっており、若者の転出超過が喫緊の課題となっています。

このことから従来からの充実した子育て環境や様々な支援施策を効果的に情報発信し、とっとり暮らしを希望する方一人ひとりに対するサポートなど移住定住施策を充実させるとともに、県内外の学生等の若者が「ふるさと鳥取」との関りを深めることで、県内定着・Uターンにつながる取組を推進し、新たな人の流れを創り、若者の県外流出に歯止めをかけていきます。

<関係人口に関連する施策>

➤ 「移り住みたい」鳥取県

- ・ 起業や地域の課題解決など若者が自らチャレンジする機会を創り出し、ふるさと鳥取に関わりをもつ関係人口を拡大することで、若者の移住を進めます。

➤ 具体的施策

- ・ 地域課題の解決に取り組める都市圏の人材を呼び込む活動を支援
- ・ 都市圏の若手社会人を呼び込む交流会を実施
- ・ ふるさとワーキングホリデーの取組支援

➤ 平成30年度上半期の移住定住状況 708世帯954人（過去最高の移住者数）

| 区分 | 人数 | |
|--------|-------|-------|
| | 年間 | (上半期) |
| 平成23年度 | 504 | — |
| 24 | 706 | — |
| 25 | 962 | (395) |
| 26 | 1,246 | (543) |
| 27 | 1,952 | (909) |
| 28 | 2,022 | (916) |
| 29 | 2,127 | (933) |
| 30 | — | (954) |

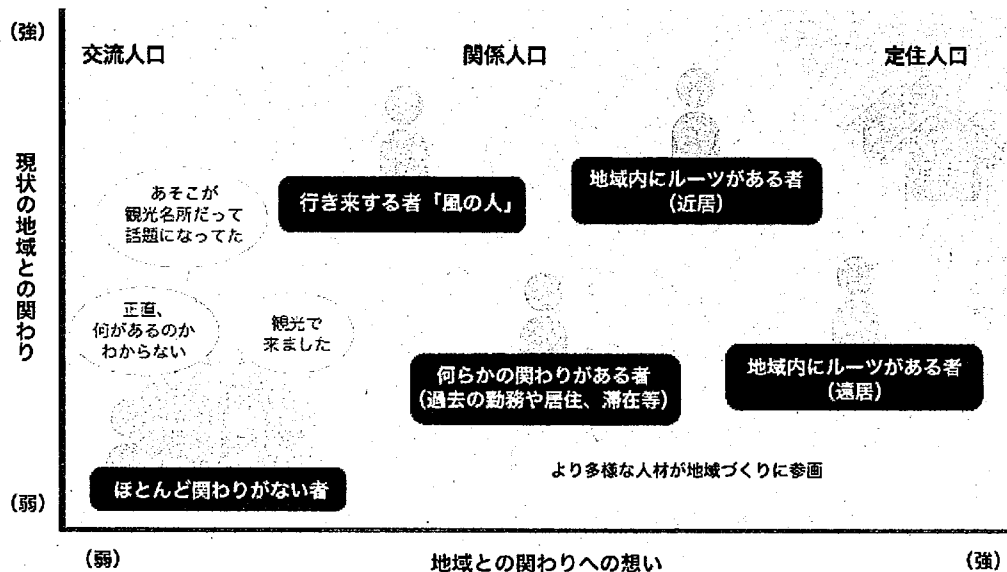
関係人口、関係案内所について

関係人口とは？

- 「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指す。

地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しているが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。また、将来的には「定住人口」の増加も期待できる。

(出典：総務省HP)



関係案内所とは？

- 観光案内所では、何か新しい情報が得られるとか、ときめくことに出会えない気がしませんか？特にローカル志向の若い世代は、地域の気の合う仲間や自分とテイストの似ている場所を探している。だから、ここは「関係案内所」になるといい。

- ・ 20代・30代半ばの世代は、一方向の考えや思想、流行に乗って動くというよりも、小さなコミュニティの属性や多様な嗜好性、仲間との共感性などに価値を置き、行動することが一つ前の世代よりも格段に多い。既成概念や従来の価値観にとらわれずに、自分たちが手応えを感じられるものをそれぞれのやり方で模索し、つかんでいっている。彼らは、東京に代表される都市ではなく、ほとんど注目されてこなかった中山間地域のような集落に魅力を感じる。若い人たちの間で、確実にローカル志向が高まっている。
- ・ いまの若者たちは「自分」を探しているのではなく、自分が手ごたえや実感を得ながら暮らせる「居場所」を探している。その居場所は、カフェ等ではなく、「地域」である。そしてローカル志向の若者たちは、地域には本当の意味での豊かな暮らしがあると感じている。

指出一正 (さしでかずまさ) 氏：群馬県出身。月刊「ソトコト」編集長。島根県「しまコトアカデミー」メイン講師

- 関係案内所は、地域の面白い人やその人に出会えるスポットのほか、こんな役割が地域に求められていると伝えるような、関わり方を案内する機能を果たす場所。
- 島根や地域づくりのことが学べる講座「しまコトアカデミー」(島根県主催) は、「関係案内所」として機能している。

田中輝美 (たなかてるみ) 氏：島根県浜田市出身。ローカルジャーナリスト。山陰中央新報社を5年前に退職。

鳥取県の「関係人口」増加に向けた取組等について

| 分類(ターゲット) | 取組等 |
|---|--|
| <p>鳥取の魅力に関心がある人(潜在的関係人口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●首都圏等での交流会参加者 ●県外での観光・物産イベントへの来場(参加)者 | <ul style="list-style-type: none"> ○首都圏等で交流会を開催し、若者や女性などターゲットやテーマを絞って鳥取の魅力を知ってもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ・H30.9 若者交流会 in TOKYO 首都圏参加者：48人 ・山ガール交流会を12月に東京開催予定 ○ウェルカニキャンペーン PR イベントや百貨店等での県産食材販売フェア、レストランフェア等観光物産PRイベントを開催し、鳥取への関心を促す。 |
| <p>鳥取の魅力に惹かれ頻繁に訪れる人(リピーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県外観光客(3回以上) H29：3,813千人/全5,907千人 ⇒好きなもの(自然・アニメ・アート等)や、ゲストハウス(「もちがせ週末住人の家」、「たみ」等)での人と人との交流に魅力を感じて通う人等 ●教育旅行者 H29：34校 4,867人 ●東京都武蔵野市家族自然体験交流等、国内交流事業で来県する人等 | <ul style="list-style-type: none"> ○鳥取砂丘「インスナ映えキャンペーン」や「食のみやこ鳥取県SNS投稿キャンペーン」、「トリピーTwitter」(フォロワー30,400人)等SNSを活用して魅力・情報を発信し、ファンからの拡散を狙う。 ○農泊や体験教育旅行の推進し、地域資源の観光メニュー化や規模拡大、情報発信・プロモーションを強化する。 ○工芸・アート村を推進し(河原町西郷地区、大山エリア)、交流イベント等により、県外アーティスト・作家を呼込む。 ○国内交流を実施し、都市との農村間の相互派遣交流等を行う。 |
| <p>県外に居ながら関わる(貢献する)人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●とっとりおかやま新橋館来場者 H29：506,369人 ●ふるさと納税者 H29：9,152件・2億563万円 ●県外鳥取県人会 17団体(その他多数有) ●ふるさと鳥取ファンクラブ会員 約2,000人 ●鳥取を応援する団体 若い鳥取応援団、TAF(Tottori Amazing Friends)等 | <ul style="list-style-type: none"> ○とっとりおかやま新橋館でイベントや特産品販売、県食材を使ったピストロカフェを通じて、東京で鳥取を感じてもらおう。 ○“鳥取が大好き”“鳥取の力になりたい”という想いをふるさと納税等の寄附金の形にして応援してもらおう。 [県以外の主な取組] ○県出身者やゆかりの人等が集い鳥取の情報を共有する交流会等を定期的に開催し、交流会参加者が鳥取の情報発信者となり、ファンの拡大を図る。[関西鳥取県人会の取組、鳥取県ファンの集い in 関西、鳥取学出前講座] ○出身者やふるさと納税などで地域と関わりを持つ町外の人に、「ふるさと住民カード」(日野町)を発行し、広報紙や催し案内などの送付、パブリックコメント参加など、各種サービスを提供する。 |
| <p>鳥取に来て関わる(貢献する)人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域課題解決プログラム参加者 ●とっとり暮らしワーキングホリデー参加者 H29：81人 ●県内でフィールド学習等を行う都市部の大学生 ●県外からのインターンシップ参加学生 H29：118人 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域課題を解決するためのプログラムを実施し、地域と取り組む首都圏の若者をマッチングする。(H27～H29年度計29名) ○とっとり暮らしワーキングホリデーを実施し、都会の若者がとっとり暮らし体験を行う。(H30：20人/年予定) ○都市部の大学・団体等を地域と連携して受入れ、学生が地域活性化に繋がる活動を行う。(H30：青学、東大等約40人) ○学生が県内企業就業体験を行うとっとりインターンシップを実施する。 |

弱

鳥取(地域)への関わり

強

官民連携による関係人口の拡大に向けた取組

○若者交流会 inTOKYO～たっぷりとっとり楽しまナイト～（「来んさいな住んでみないやとっとり」県民会議主催）

首都圏在住の若者に、とっとりの魅力を知ってもらい、とっとりの若者と交流してもらうことで、とっとりとの繋がるきっかけを作り、鳥取との関係人口の拡大を図るため、若者交流会を開催。

【交流会の概要】

日時 9月16日（日）18:00～20:30

場所 いいオフィス（東京都台東区東上野／上野駅徒歩2分）

運営 「来んさいな 住んでみないや とっとり」県民会議（事務局：鳥取県）

参加者 78人

【首都圏側】鳥取や地方に関心がある人、鳥取の人脈を作りたい人、鳥取ファン、IJU ターン希望者、鳥取出身者など、40歳以下の若者 48人

⇒参加者の中には、昨年県内活動で本県に関わりを持った者（青学鳥取分室2人、東大FS：2人移住女子ツアー：2人など）もいる。

【鳥取側】鳥取商工会議所青年部等6人、プレゼンター・運営・関係者等 30人

内容 ①鳥取県のプレゼン、

②鳥取の食材で料理づくり体験、

③ご当地グルメや地酒等を楽しみながらの懇親会

※ 今後、平成31年1月に東京で第2回の交流会や、平成31年2月に関西での交流会の開催に向けて、検討中。

○とっとり暮らしワーキングホリデー

将来的な本県への移住定住の促進や本県に愛着をもつ若者を増やすため、都会の若者が2週間から1ヶ月間程度、とっとり暮らしを丸ごと体験できる仕事、交流、宿泊をパッケージにしたメニューを企画・実施する企業・団体等を支援する。（H30参加者想定数：約20人、11/9現在参加決定数：17人）

【主な取組団体】

(1) 体験と宿泊もちがせ週末住人の家（鳥取市用瀬町） 《受入人数：8人》

○内容

鳥取市用瀬町において、県外の若者が、学生の経営する宿に滞在し、地域との交流や同世代との交流、地域で暮らすことの魅力を知ること、関係人口の創出につなげる。

○主な体験・交流の状況

- ・8月～9月の2週間の用瀬地区での滞在期間中に、イベントの企画・宿泊の運営を手伝う。
- ・毎月実施している「週末なべ部」等のイベントに参加し、鍋を囲みながら、地域の人々や、鳥取県内で働く社会人・大学生と交流を実施。

○参加者の感想

- ・イベントの企画をして、2週間と思えない濃い体験ができた。用瀬で再会する、絶対また会おうとワーホリメンバーやインターンメンバーと約束。帰る場所がまた1つ増えた、出会いに感謝。
- ・第二の故郷ができた。また帰ってきて、お世話になった人々に恩返ししたい。

(2) シーサイドうらどめ（岩美町） 《受入人数：1人》

○内容

岩美町の浦富海岸を目前に挑む民宿「シーサイドうらどめ」で働きながら、岩美町の食や風景等の魅力を感じてもらうとともに、シェアハウス「TACOBUNE」に宿泊し、地域の方との交流を通じて岩美町のファンになっていただく。

○主な体験・交流の状況

- ・8月の1カ月間「シーサイドうらどめ」で働く。
- ・滞在地で行われる夏祭りの行事に参加し、地域住民や同じシェアハウス「TAKOBUNE」の入居者と交流を通じ、地域の文化・風習や魅力などを体感。

○参加者の感想

- ・憧れていた岩美町にきて、地元の人々の温かさに触れ、さらに岩美町に親近感がわき住みたくなった。

○地域課題解決プログラム

・とっとりスタディキャラバン

県東部で自然をテーマに活躍する人や特徴的なコンテンツに出会い、地域の課題解決や活性化に向けた取組を行うスタディツアーを実施。この鳥取での体験から参加者自らの世界を広げるとともに、とっとりとの関係をつくったり、魅力を発信することを狙いとした。

【H30 キャラバンの概要】

日時 9月7日(金)～9日(日)

場所 Camel0857 (鳥取市富安2-19)

主催 (株)おむすび鳥取

参加者 7人(県外大学生2名、県外高校生1名、県内大学生3名)

内容 ①自然体験アクティビティ(ファットバイク)、②鳥取の街中探検、③真教寺公園バックヤード見学・課題リサーチ、④公園管理者への新規事業提案等

提案 地元で愛され続ける動物公園「真教寺公園」への事業提案実施。オウム的一种「キバタン」が餌とするヒマワリの種を夏に栽培するなど四季に応じたイベント展開と、若者の興味を引くため「インスタ映え」するベンチの設置やイルミネーションの実施等

○都市部の大学・団体等を地域と連携して受入

・青山学院大学社会情報学部鳥取分室(H30～)

鳥取市や地域団体「いんしゅうまちづくり協議会」との連携のもと、大学の単位化を目指した学生のフィールド活動・宿泊を受入れ、学生は、地域団体と連携して、地域の子どもや住民を対象にカメラ等を使ったワークショップを開催。

【H30年度の取組状況】

・8/21 社会情報学部社会情報学研究センター鳥取分室設置(県内初)

・8/28～9/8 苅宿教授及び学生15名が鹿野に滞在し、フィールド学習や県内企業でのインターンシップ(3企業、8名参加)を実施。

※9/2は鹿野学園の児童生徒等を対象に、iPadのアプリを使ったワークショップ実施。

・9/7～9/9 長橋教授及び学生12名がいんしゅう鹿野まちづくり協議会と意見交換し、街並みを活かした地域づくりを、今後どうやって、観光客や経済効果を増やし発展させるかについて意見を交わした。また、鳥の劇場の取組を視察し、演劇に馴染みのない学生に対し代表が演劇が果たす役割や想いを伝え、学生との意見交換を行った。

・今年度、地域住民を対象とした公開講座の開催も検討中。

・10/6・7の学園祭で鳥取での活動を報告(9/2に鹿野で実施した地域の子ども・住民とのワークショップイベントの状況、鳥の劇場・地域団体との意見交換の状況をパネル展示)や鳥取の魅力のPR(鳥取滞時に撮影した海等の自然や豊富な食材を宣伝するための映像や写真によるPR)を実施するとともに、知事インタビュー動画を放映。

・東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム(H29～)

湯梨浜町やまちづくり会社や地域団体(よどや)、農協等との連携のもと、学生のフィールド学習活動と宿泊を受入れ、学生は、湯梨浜町に滞在しながら地域課題の解決策を検討し提案するための現地活動を実施。年度末に報告・提案する。

【H29年度】(8/21～9/2に現地活動)

学生3名が湯梨浜町に滞在し、「生涯活躍のまちづくりへの提案」を課題として現地の人の声を聞き、ニーズを発掘。その後、学内と追加活動で事後調査を行い、年度末に湯梨浜町内と学内で報告。

学園祭(翌年度の「5月祭」)で、活動内容の発表と湯梨浜町の魅力のPRを実施。

〈活動テーマと提案〉

【仕事】移住希望者に対し、スローライフの実現のため、季節や時間によって仕事を変化させ複数の小さな仕事(昼はNPO、夜は旅館、野菜の時期は収穫手伝い等)をすることで経験の幅を増やすとともに自分で仕事量を調節する田舎での暮らし方を提案

【地域交通】住民による地域交通のあり方を考えるワークショップの開催、住民が集まる小さな拠点等を屋内バス待合所として整備、バス会社とタクシー会社が連携し町全域にオンデマンド交通を運行する等提案

【生涯学習】講師と受講者間の一方通行を解消し、受講者が講座を考案し運営に参加したり、講師から指導を受けた受講者が子どもや独居高齢者に教える等循環する教養型講座を提案。

【H30年度】(8/20～9/2に現地活動)

学生3名(昨年度とは別の学生)が湯梨浜町に滞在し、前年度の活動テーマ(仕事、地域交通、生涯学習)を継承し、前年度提案事項をさらに掘り下げて現地で住民や関係機関と提案に向けた検討を実施。

現在、事後調査等により活動結果をとりまとめ中。再度来県して報告書を完成させ、年度末に湯梨浜町内と学内で報告予定。

「関係人口」とされる方が学校教育活動に貢献した事例

高等学校課

◆米子東高校卒業生による寄付

- ・平成29年度に、米子東高校卒業生が、1千万円を寄付
- ・母校のために何か貢献したい、心のふるさとである母校に恩返しをしたいという思いから、生徒の海外研修のための支援を提案
- ・この資金を活用して、米国のポストン・ウィーロック大学（マサチューセッツ州）で開催される異文化交流研修に、生徒を派遣。（H29：6名、H30：5名）

◆地域おこし協力隊による地域課題の解決に向けた高校魅力化等の取組

- ・岩美町地域連携コーディネーターは、平成27年に岩美町に移住。
- ・岩美町の地域課題であった岩美高校の魅力化をテーマとした地域おこし協力隊として活動。
- ・岩美高校による地域探究活動「イワツツミッション」、アニメ「Free!」関連イベント、高校の魅力化をテーマとしたフォーラム等を実施
- ・地域おこし協力隊を卒業した平成30年度から岩美町の集落支援員（地域連携コーディネーター）として、引き続き地域住民と一体となった岩美高校の魅力化等に取り組む。
- ・成果として、岩美高校のイメージアップにつながり、地域の活性化の一助となっている。

◆グローバルリーダーズキャンパス事業の橋渡し

- ・平成27年度、鳥取東高校卒業生が、スタンフォード大学が日本の高校生向けに提供する遠隔講座を活用して、鳥取県の高校生向けの講座開設に向けて、大学側への働きかけを実施
- ・その結果、平成28年度から、本県独自のカリキュラムである「グローバルリーダーズキャンパス」として、県内高校生（30名程度）を対象に事業を継続
- ・受講者した生徒からは、難関大学合格、英検上位級合格、英語力の向上など目に見える成果はもとより、英語学習に対するモチベーションの向上、異文化理解の深化などの成果も見られる

◆公益財団法人長谷育英奨学会による奨学金等の支援

- ・公益財団法人長谷育英奨学会は、鳥取市出身の故長谷敏司氏の意志を受け継ぎ、鳥取県の青少年の修学を支援するため、平成6年から奨学金事業を実施（現在まで、約500人の大学・短大生に支援）
- ・平成25年度及び平成30年度に、県内の高校等に行事用テントを寄贈

◆県外大学生と高校生の継続的な交流事業

- ・平成23年度から、日野高校と和歌山大学のゼミの学生（県立高校卒業生が含まれている年もある）が交流を継続
- ・和歌山大学の教授と交流のある日野の高校教員が、生徒に地域のリーダーを育成しようという意図で実施
- ・学校の活性化方策及び中山間地域や農業の現状等について意見交換
- ・参加した大学生は、日野高校や地域の取組に刺激を受け、次回も是非参加したいという感想

とっとり創生若者円卓会議から鳥取県知事への提言【抜粋】

(平成30年10月10日、知事提言)

テーマ 「地域を応援する仲間創出(とっとりとの関係人口拡大)について

【提言その1】

「鳥取が好き、自分の住むまちから鳥取のために何かしたい、鳥取に行って役立ちたい」という「関係人口」になる人たちの潜在的な想いをさまざまな機会を通じて掘り起こし、地域の課題と一緒に考え、鳥取県と継続的につながる仕組みをつくること。

【具体的方策】

- 関係人口になる人たちが鳥取県に関わるきっかけとして、「鳥取県のおいしいもの」「鳥取県にゆかりのあるマンガ(アニメ)ファンの集い」「20代限定鳥取出身交流会」等、同じ趣味やルーツのある人同士が鳥取県出身者らとともに鳥取県のことを考える「交流会」を実施し、「鳥取県のために何かしたい!」という潜在的な想いを掘り起こす。
- 関係人口になる人たちが「関係人口になる3ステップ(※)」の①～③のどれに当てはまるかを把握し、各段階に応じたイベントの案内を行いながら継続的なつながりを築き上げる。
 - (※)メンバーが提唱する関係人口になる3ステップ
 - ①鳥取が好き!
 - ②自分の住むまちから鳥取のために何かしたい!
 - ③鳥取に行って役立ちたい!
 - (①、②の人には都内で鳥取のイベント案内、③の人には鳥取で開催される地域のイベント案内)
- 関係人口になる人たちが、「自分ごと」として地域に関わり、関係人口と地域住民が継続的につながる仕組みとして、関係人口と地域住民が交流し、地域の魅力と課題を同時に見て体感する「滞在型プログラム」を実施する。

【提言その2】

県内に「関係人口」の考え方を広く周知し、地域住民等と「関係人口」の出会いがある場所や拠点である『関係案内所』同士の繋がりを活性化させ、県内に「関係人口」増加のための受け入れ体制をつくること。

【具体的方策】

- まずは地域住民や団体(例:ゲストハウス・民泊・カフェのオーナー等)が「関係人口」について知ることが大切です。県外から地域に人が来ても「どうせ帰ってしまう」という意識から、「どうしたらもっと地域に関わってもらえるか」に気持ちを変えるためのきっかけの場を設ける。
- 地域住民等と「関係人口」の出会いがある場所や拠点で、人と人をつなぐ役割を持った『関係案内所』が必要です。地域で活躍する人と地域住民等が地域の魅力や課題等を発見するための場や、地域づくりのプロの指導を受けたり、「関係人口」になる人たちが地域にどのように関わっていきたいかを把握するためのワークショップを開催する。
- 『関係案内所』同士のつながりが生まれ新しいつながりを呼ぶような支援を行い、県内に「関係人口」増加のための受け入れ体制をつくる。

＜参考:とっとり創生若者円卓会議の概要＞

- ・様々な県政課題に対する解決のための具体的施策等について、多様な分野で活躍する若者が意見交換しながら県に提言等を行う。(実施:H27.3～)
- ・平成30年度のテーマは「地域を応援する仲間創出(とっとりとの関係人口拡大)」(8名)と「山陰海岸ジオパークの魅力発信」(9名)。